

飲水思源

町長 松岡市郎

歌手、大黒摩季さんから学ぶ

今年の国際写真フェスティバル、どんとこい祭りでは、歌手の大黒摩季さんが特別出演し、羽衣公園が人の身動きがとれないほどの人出で賑わったことは記憶に新しい。1万2千人を超える聴衆を前に息を切らして踊り歌う姿に、多くの人々は感動という元気を得たことだろう。また公演の中間で映画・写真甲子園の主題歌「Latitude〜明日が来るから〜」を熱唱し、心に深く歌声が刻まれた。

大黒さんは高校を卒業し、音楽の道を目指して上京するが、作詞、作曲は採用されず、いつもバックコーラスの一員という支える側であったという。「『これではダメだ：』」と思ひ、曲を書き残して米国へ行き、ベビースITTERなどをしながら音楽に磨きをかけていた」と話してくれた。

日本へ置いてきた曲がある人の目に止まり、帰国となったようだ。作詞にも相当の関心があり、「私は文字オタク」だという。印象に残った言葉は、エクセルに書き留めているというのだ。そうか！ 大黒摩季は一日して有名になったのではないの

か。無名な人が有名になるには、日々の積み重ねがあったのだ。「天才一日にして成らず」である。

「写真甲子園 0・5秒の夏」が第30回東京国際映画祭への特別招待作品になった。映画祭は10月25日から11月3日までの10日間が会期となっている。「今までにはなかった何かが起きる、それは写真甲子園の映画に先立ってだ」と予測する人がいる。一体何であろうか。

大黒さんは熱く燃え上がるので、「元気を出せ」とパフォーマンスでも行うのか。いずれにしても写真甲子園の映画宣伝のために起きるサプライズなら歓迎というものだ。楽しみである。10月下旬に注目したい。

写真文化は町と人を繋ぐ。映画監督、俳優、音楽アーティスト、文学作家やデザイナーとの出会い。出会いが地域力を向上させるという人々の提言が多い。大黒さんのような即断力と行動力が、地方力につながるのだと学ぶ。町づくりも先人一人ひとりの努力の積み重ねがあって発展している。町づくりも休まず、来年に向かって動き出している。

烏に単は似合わない(一般書)

阿部智里/著 文芸春秋/刊



八咫烏(やたがらす)が支配する世界「山内」で始まった若宮の皇后選び。集まった4人の姫は、陰謀や恋心を胸に美貌と才気を競い合う。人の姿に転身する能力を持つ八咫烏の一族が暮らす異世界を舞台にして繰り広げる和風ファンタジー小説。一族を統べる若宮と近習の青年たちが、天敵・人食い狼と熾烈な闘争を繰り広げる。八咫烏全6巻シリーズ。

ファンタスティック・ビーストと魔法使いの旅(DVD、映画)

発売元:ワーナー・ブラザーズ ホームエンターテイメント



1926年のニューヨーク。イギリスの魔法使いで魔法生物学者のニュートは、調査保護活動の旅の途中、持っていたスーツケースをパン屋志望のジェイコブのスーツケースと入れ替えてしまった。中には魔法生物が入っていたのだ。そしてジェイコブは入れ替わったスーツケースの中から魔法動物を逃してしまった。ニューヨークの街中で不可解な何かが暴れ回る事件が続発。あちこちに破壊の痕跡を残したため、魔法界の存在が人間界に知られそうになる。ニュートは、ジェイコブと一緒に魔法生物たちを取り戻そうとする。そして闇の勢力と対決することになる。(133分)

貸し出し図書ビデオ紹介

文化交流館 ☎82-4245

休館日変更

来年オープンする「写真文化首都創生館」(仮称)への移転準備のため、休館日は10月から「毎週火曜日」に変わります。返却本は玄関の返却ポスト、返却DVDは農村環境改善センター(公民館)の窓口にお返しください。

★本、DVDの蔵書リクエストをお受けしています★

1人5冊まで14日間、ビデオは1人2本まで4日間

貸し出し検索

<http://www.lib-finder2.net/higashikawa/servlet/Index>

キツネとねがいごと(絵本)

カトリーン・シェラー/作 西村書店/刊

キツネとねがいごと



すっかり年老いてしまったキツネは、わなで捕まえたイタチを助けるかわりに「自分のりんごの木に登ったものは、その木にくっついてしまう」という魔法をかけてもらいました。そして自分を迎えにきた死に神までもくっつけてしまいました。そして永遠の命を手に入れたのですが、やがて奥さんが死に、友達も、子どもも孫もいなくなり…。「命」について考える絵本。